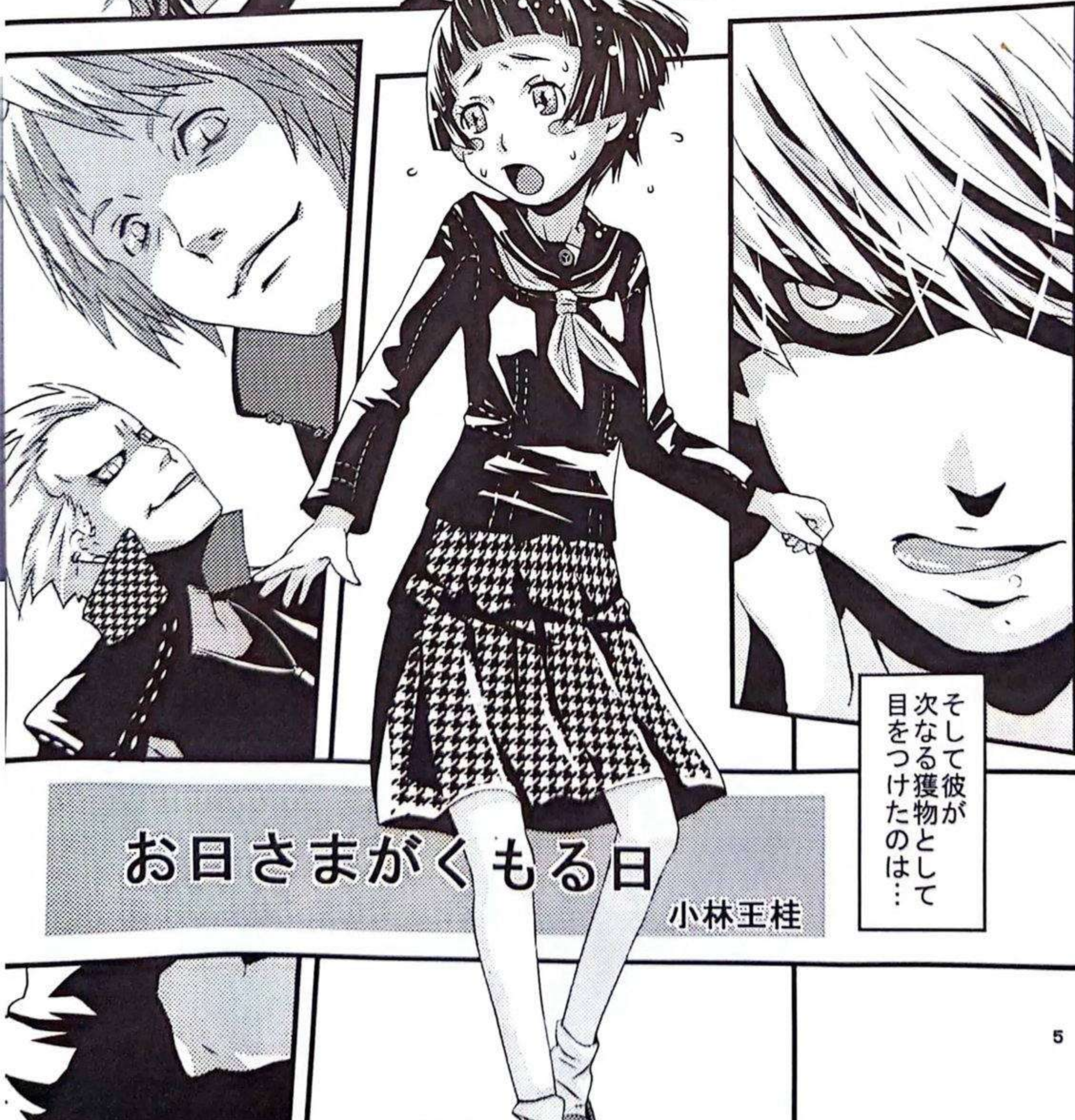




転校してくるやいなや
番長の座に上り詰めた
鳴神悠は

暴力と
都会の男の魅力で
幾多の女生徒達を
毒牙にかけてきた



そして彼が
次なる獲物として
目をつけたのは…

お日さまがくもる日

小林王桂





ヤーエ

あ

あ

やだ...

やだっ...

オハハハ



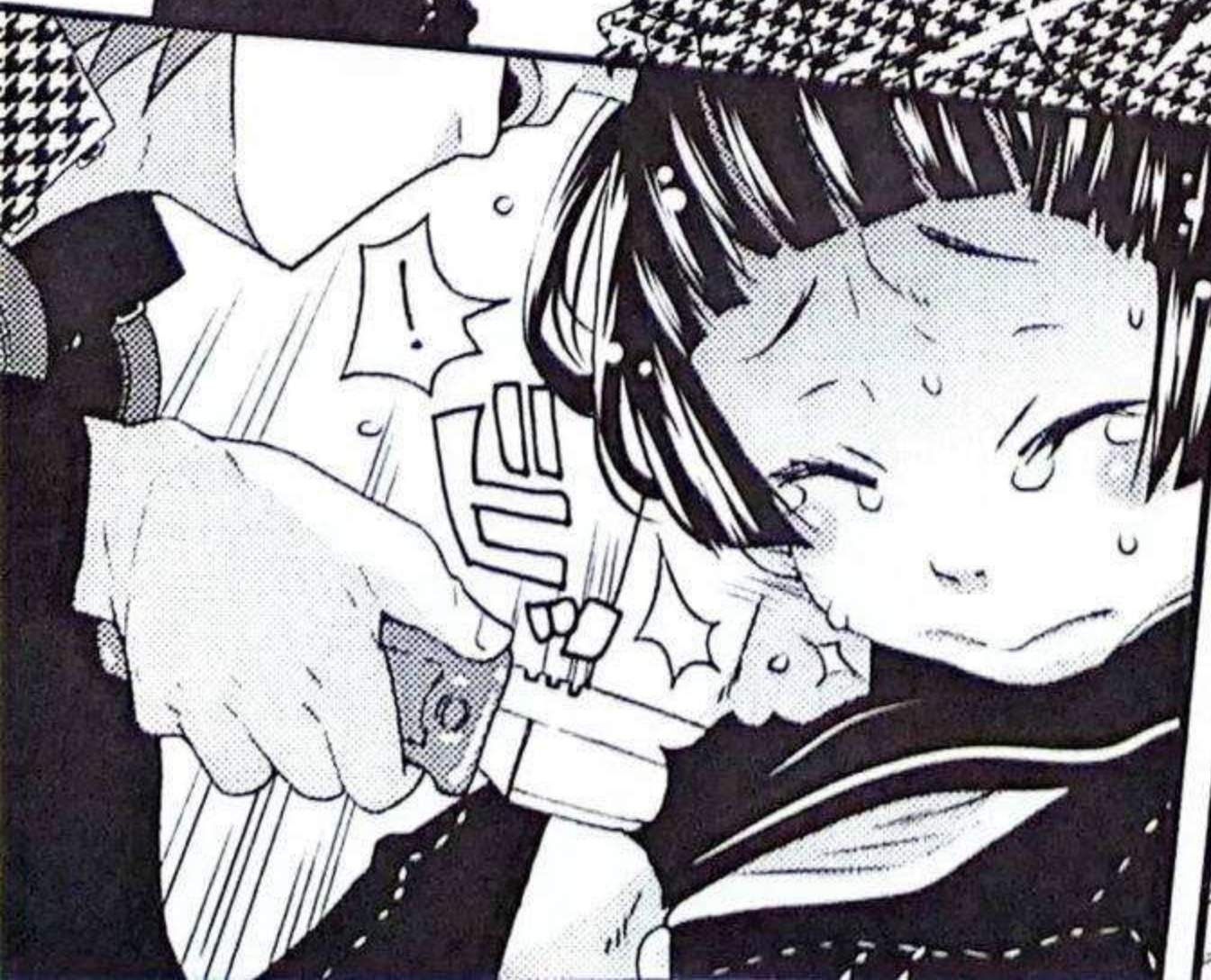
そんなあ...



ぜぬがす

いたいけな小娘が
ご所望なんだと

ウチの番長
そこらのビッチは
もう飽き飽きでさ



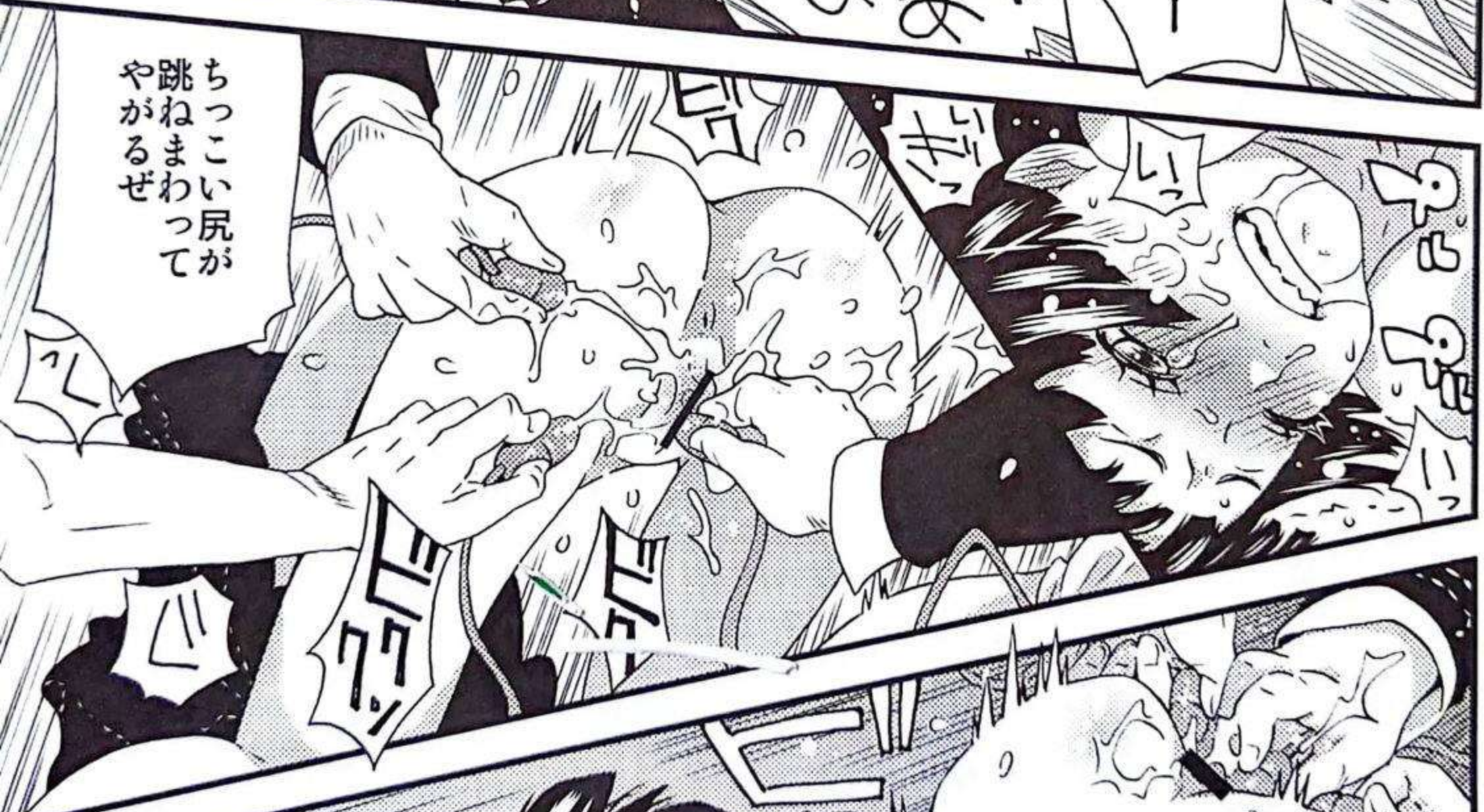
キミみたいだね!



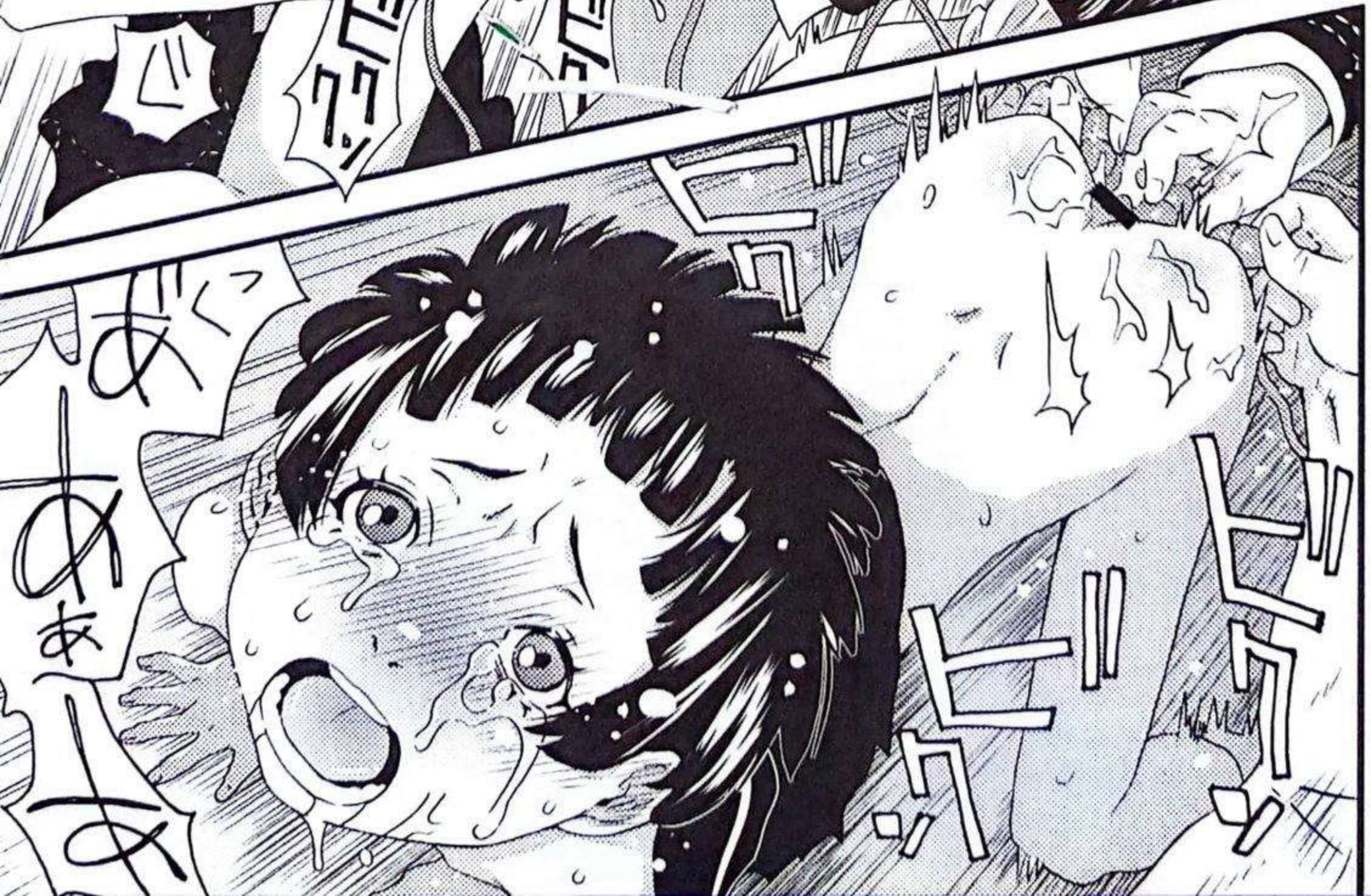


オラ
連続アクメだ
イけっ!!

ダメダメ
逃げんなー



ちっこい尻が
跳ねまわって
やがるぜ





ちよつと
やりすぎたかな

何回イってた？

—さあ？

てかもう
イキツばなし
だったろ？

うが！

うが！



ちびマ○コのクセに
まっ赤に発情
してるぜ



まだ
ヒクついて
やがる



やだ...
そんなの
はいらな...

やめ...

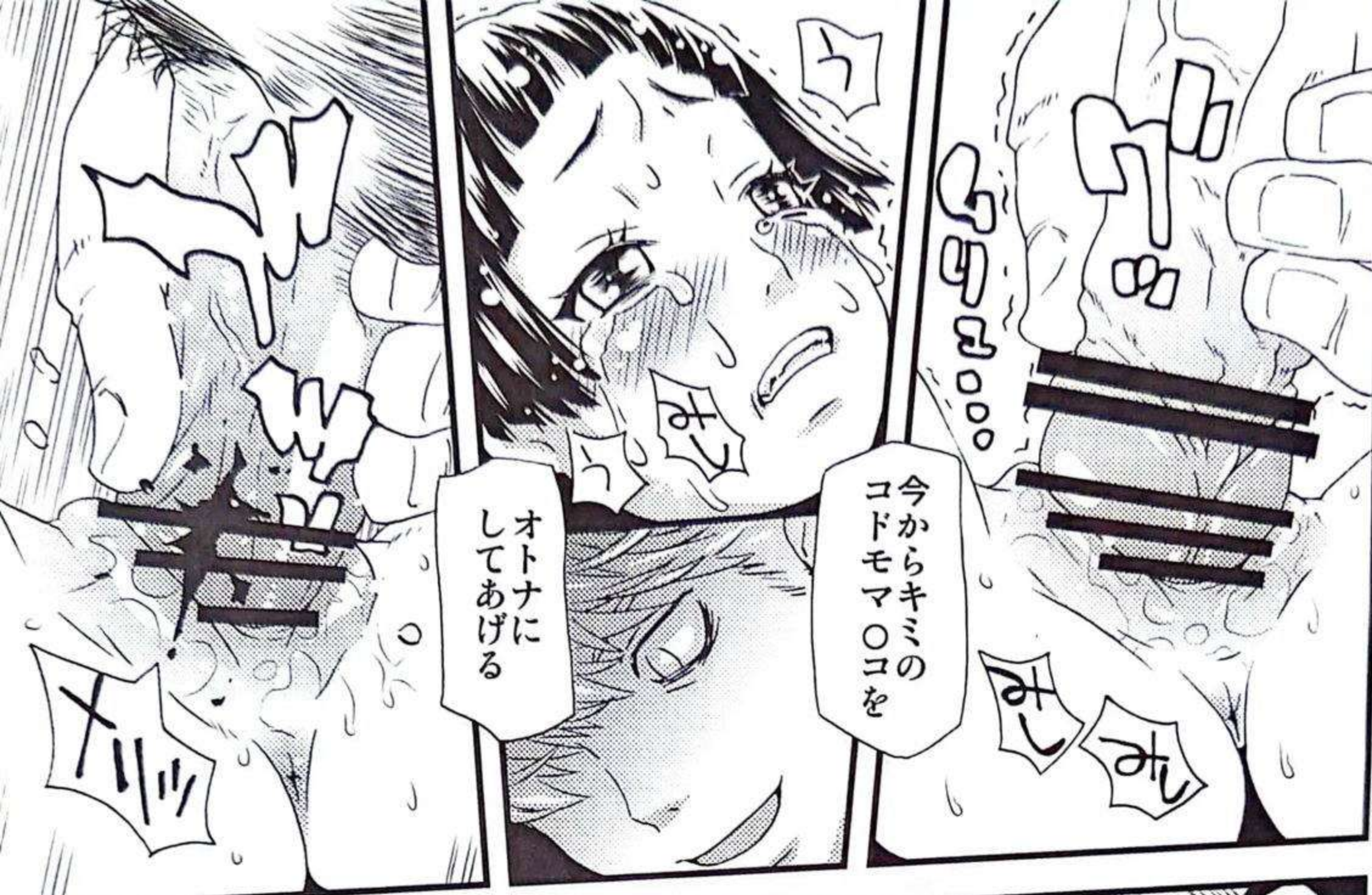
やめ...
くださ...



エ!?



さて...
そろそろ
いたたこうか



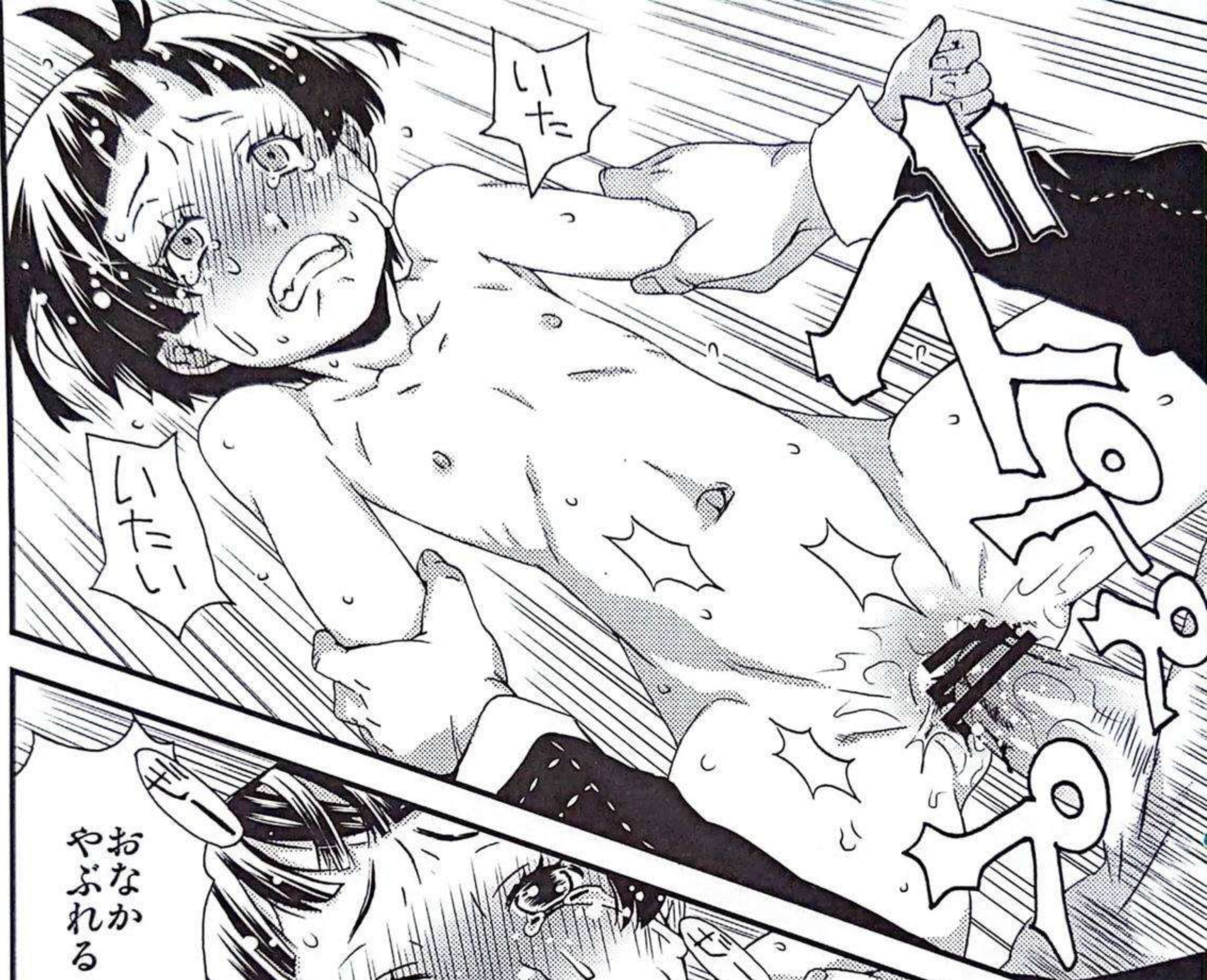
オトナに
してあげる

今からキミの
コドモマ○コを



さすがに
キツいな

あれだけ
ほぐしても



おなかるつ
やぶれるつ



ガクガク

抜いて
も...
ゆるしてくだ



傷だらけに
なっちまったな

出血も多いな
異物に慣れてない
小さくて柔らかい腫が

いきなり奥まで
貫くのは
可哀想だった
かな





痛いつ

この初々しい臆も

ガウ

ガウ



小さくて抱き心地のいいカラダも

スミズミまで味わってあげるよ

アッ

ズ



オラ
啜えろ

わお

まじっ

まじっ

あッあッ

まじっ

まじっ

オモチヤみたい
に扱えるツスね

コイツ
チビで
軽いから

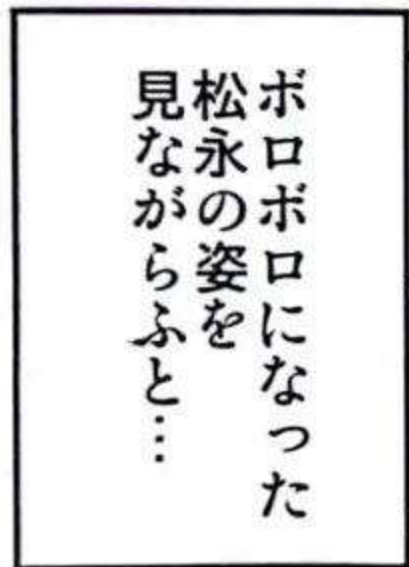






尚紀ー
見張り
もういいぜ

フー犯った犯った
もう精子出ねえわ



ポロポロになった
松永の姿を
見ながらふと…

エ？
俺…？

どうだ尚紀？

俺らもう済んだし
コイツ好きにして
いいぜ



松永ってどんな笑い方
する子だったかなんて
思い出そうとしてみた

俺…



俺は…

END